

潜在看護職 災害対応学ぶ



体に鋭利な物が刺さっていると想定し、タオルやテープで固定する受講者ら＝金沢市鞍月で

金沢 応急処置など初研修

日本福祉大(愛知県)は三日、金沢市で初めて、潜在看護職者への災害対応研修会を同市鞍月の県地場産業振興センターで開いた。七人が受講し、災害時の応急処置の仕方などを学んだ。

潜在看護職とは、看護師や保健師などの免許を持っていないながらも育児などさまざまな理由で離職している人を指す。災害発生時に避難所での応急処置などの協力が期待されている。

研修会では、名古屋掖済会病院の北川喜巳副院長が災害初期の傷病者対応などについて語った。その後はグループに分かれ、市消防

局救急救命士の指導の下、実習を行った。受講者は家庭にあるもので応急処置をする方法を学んだ。体に鋭利な物が刺さったと想定して動かないよ

うにタオルとテープで固定したり、骨折した人に対して雑誌や段ボールなどを使って固定したりした。北川副院長は「災害時には患者があふれて病院で診

てもらえない人が出てくる。そうした時に身の回りのもので応急処置をしてくれる人がいると、とても助かる」と話した。

(郷司駿成)